

視 点

ちとせ版ネウボラ

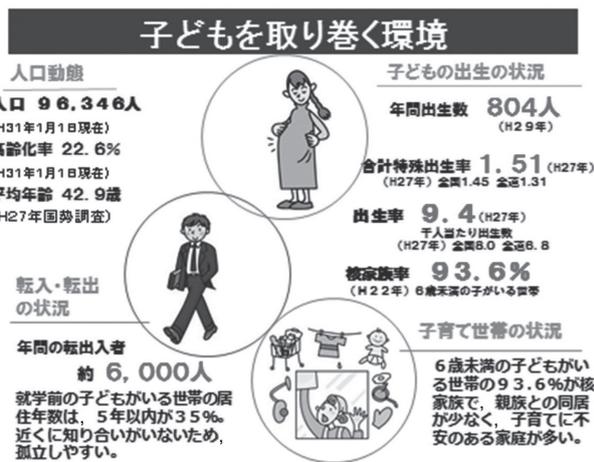
～子育て包括支援センターの経験からみえたこと～

山 谷 奈奈子

I. 千歳市の概況

千歳市は、北海道の中南部に位置し、「国立公園支笏湖」などの雄大な自然に囲まれ、北海道の空の玄関「新千歳空港」がある交通アクセスに恵まれた中核都市である。また、多くの企業が立地している工業団地と自衛隊3基地があり、北海道内において、人口増加を続けている数少ない都市の一つで、平成31年1月1日時点の人口は97,021人、平成29年の出生数は804人、平均年齢は42.9歳（平成27年国勢調査）と若い街である。

II. 千歳市の子育てを取り巻く環境



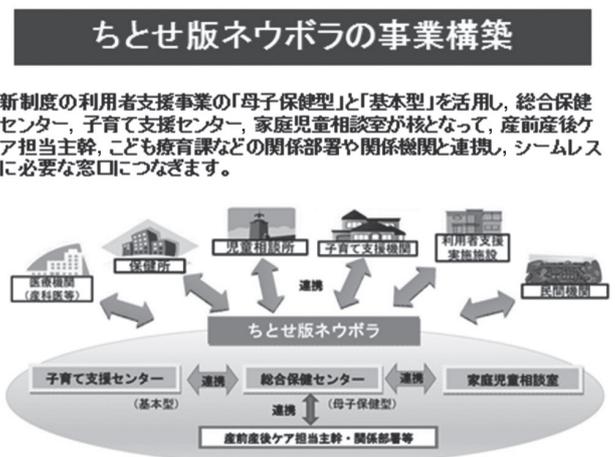
本市は、以前から子育て世代の転出入が多く、子育てをサポートしてくれる人が身近にいない中で、母親一人が育児負担を抱えるワンオペ育児や地域から孤立し、不安を抱えながら育児をしているといった状況が

みられた。

そのため、母子保健分野で実施している母親学級においては、知識の啓発に加え、グループワーク等で友だちづくりに力を入れ、子育て支援センターにおいては、育児サークルの支援や母親同士が交流できる場を積極的に設けていたが、子育ての悩みを気軽に相談でき、身近にアドバイスを受けることができる場の提供は、十分といえない状況であった。

国が整備を始めた子育て世代包括支援センター事業は、妊娠期から子育て期において、切れ目なく、育児を一人で抱え込まないように支援するということが明記され、この事業内容は本市の子育ての課題を解決するうえで非常に有効と考え、できるだけ早期に事業をスタートさせたいとの思いで、平成28年10月から「ちとせ版ネウボラ」として事業を開始している。

III. ネウボラの理念と概要



ネウボラ従事者の人数

(1) 母子保健課

- ①妊婦ネウボラ専任職員 5 名（非常勤職員の助産師 2 名、保健師 1 名、看護師 2 名）、合計で年間240日勤務。
- ②こどもネウボラを担当する専任職員 1 名（常勤保健師）
- ③ネウボラと母子保健業務兼任職員 7 名（常勤保健師）

(2) 子育て総合支援センター

- ①こどもネウボラ兼任職員 4 名（子育てコンシェルジュ 4 名）

(3) 主幹（産前産後ケア担当）1 名（常勤助産師）は、サポートとして参画

ネウボラの開始にあたり、スタッフが共通の目標と認識を持つことができるよう、「全ての妊婦、母子、子育て家庭に対して、直接のアドバイスや援助の機会を確保し、生まれ来る子どもたち一人ひとりの幸福を実現します」という理念を掲げた。

ネウボラは、母子保健分野から保健師と助産師、子育て支援センターからは子育てコンシェルジュが担当者となり、母子保健型と基本型が連携してチーム支援として実施している。

妊婦を対象とした「妊婦ネウボラ」は、母子健康手帳の交付と併せて毎日実施し、妊婦全員に妊娠期支援プランを作成しているほか、希望により予約制で個別相談を行っている。

また、妊産婦・子育て家庭対象の「こどもネウボラ」は、総合保健センターをはじめ10ヶ所の子育て支援センターを巡回して月5回実施しており、相談したい場所を選んで相談できる体制としている。さらに、プライバシーが保てる個室を整備し、予約制の個別相談を開始している。

巡回型の「こどもネウボラ」は、子育て支援センターに遊びに来がてら気軽に相談ができるというメリットがあり、子育て支援センターの職員の声かけにより、気になる対象者の相談につながることも多く、介入の糸口となり、早期に支援を開始することが可能となっ

ている（写真1, 2）。

ネウボラ利用者のアンケートからは、「複数の場所で実施しているので選択して利用できて便利」、「専門家にアドバイスをもらえて、心配事や不安や疑問が解消され安心した」、「些細な相談でも親身に丁寧に対応してもらえた」などの感想が聞かれ、担当スタッフからも利用者をつながる中で、利用者が「ホッとできる場」となっていると実感できる等の感想が聞かれている。

IV. ネウボラファイル

ネウボラの開始と同時に、育児で困ったときにいつでも見返すことができるよう、千歳市版の育児支援プランと千歳市の子育てに関する情報をまとめた「千歳市子育てガイド」や必要なリーフレットを綴り1冊にまとめた「ネウボラファイル」を作成した。

このファイルは、妊娠届け出の際に妊婦全員と転入者に配布している。乳幼児健診で渡しているパンフレット等を入れるなど、自分なりの使い方ができるようPRしている。

利用者からは、「支援プランが一目で見やすく育児の見通しが立てやすい。必要な資料がまとまっていて必要なときに見返すことができる」等の感想が聞かれている反面、大きくて保管が大変、第2子以降は同じ冊子は必要ないなどの意見もあり、今後の検討事項となっている（写真3）。

V. 母子保健とネウボラ

乳幼児健診をはじめとする母子保健事業において、保健師は、子どもが健やかに育つことを目的として支援を実施しているが、時として、保健師側の早期に適切な支援や療育支援につなげたいという思いは伝わらず、保護者から拒否されることがある。

子育て中の保護者間において「健診で積み木ができ



写真1



写真2



写真3

ないとダメだよ。言葉が出ていないと指摘される」などの情報が広がり、保健センターは指摘や指導を受け場で敷居が高いと思われてしまうこともある。

特に発達について心配している保護者ほど、発達を保証してほしいという思いは強く、発達相談を勧められた場合は、「発達でひっかかった」と落ち込む姿が見受けられた。

一方、ネウボラでは、相手からの相談や心配に寄り添うことを基本としているため、支援やアドバイスを受け入れてもらいやすく、気持ちに寄り添いながら、受け止めることができるまで伴走し、相談を重ねる中で、保護者は、「子どものためにできることはないか」と前向きになり、自ら発達相談を希望することもある。

今まで、母子保健分野の保健師は、早期に療育機関につなげなければという焦りがあったが、ネウボラ開始後は、まず、ネウボラにつなげ、保護者とともに子どもへのかかわり方について考えながら支援の機会を待つという余裕を持てるようになったと感じる。

母子保健分野の保健師とネウボラ担当の保健師が連携して、支援方法を検討できるメリットもあり、ネウボラを開始したことにより保健師の役割分担が可能となっている。

VI. ネウボラ個別ケア会議

ネウボラの開始に伴い、相談後、事後支援が必要と思われるケースに対して、個別ケア会議を月に1回、定期的実施している。

個別ケア会議は、母子保健課、子育て支援センター、児童虐待に対応している児童相談係、主幹（産前産後ケア担当）等のネウボラに関連する機関が集まり、育児支援等が必要なケースについて、会議の場でアセスメントを実施している。千歳市要保護児童地域ネットワーク協議会の個別会議には至らないグレーゾーンのケースを対象に実施しており、関係機関が意見を出し合いチームとしてかかわることが可能になってきている。

従来のアセスメントは、それぞれの機関で行い情報提供という形であったが、一同に一つのアセスメント様式を用いてアセスメントすることにより、対象者のいろいろな側面がわかり、対象者への理解が深まっている。その後、共通認識のもと養育支援プランを作成し、プランに基づき育児サービスの提供やモニタリングをすることができるようになった。

また、予防的視点が追加され、ケア会議の場での共

有事項に配慮して、各機関が対象者に寄り添いながらかかわることができるようになった。

VII. ネウボラを実施してみえたこと

1. ポピュレーションアプローチの充実と抱え込まない支援

ネウボラでは、すべての保護者を対象として各期にわたり支援プランを作成し、相談を受けることで、育児等で困って助けが必要になる前からかかわりを持つことができている。

専任の相談員を設けていることから、顔の見える支援の拠点となり、相談開設日は同じ保健師に相談できるといった一貫した支援となっている。

また、不適切な養育と思われる家庭については、保健師のみで今後の支援について検討していたことが多かったが、ネウボラ導入後は、ネウボラ個別ケア会議を利用し、虐待を管轄する「こども家庭課」や、子育て支援を行っている「子育て支援センター」との検討ができるようになった。

担当者の判断やそのときの考え方で連携していたケースが、システムとして組織で連携できるようになり、支援を抱え込まないようになってきたこともネウボラを開始して良かった点であると感じる。

2. 課題と今後

フィンランドのネウボラは、一人の支援者が継続して対象家族を受け持ち一貫した支援となっているが、本市においては、虐待等の養育問題が大きい場合は、ネウボラだけでは限界があり、家庭訪問を中心とした支援を行っている地区担当保健師に引き継いでいる。

支援者を変更する際は、新たに信頼関係を築くことが必要となり、利用者が戸惑うことがないよう配慮することなど支援の難しさも感じている。

また、本市のネウボラは、対象である父親や小中学生の保護者からの相談件数が少ない状況であり、相談体制をはじめ課題となっている。

父親の育児の悩みに寄り添い、父親と母親が協力して、同じ目線で育児ができるよう子育て支援分野と協力して、父親の育児意識の向上に取り組まなければならないと感じる。

思春期を対象とした相談では、教育相談やスクールカウンセリングなど相談窓口が複数ある中で、相談内容に応じてネウボラが選択できるような働きかけが必

要であり、周知方法を含め検討しなければならないと感じている。

ネウボラは、子育てに寄り添い子育て家庭の現状を適切に把握し、アドバイスを行うことで、すべての子どもたちが幸福に育っていくことを目標としており、ネウボラにかかわるスタッフ全員を対象として、開始当初からカウンセリングやコーチング等の研修を実施

し、対象者に寄り添う支援や相談スキルの維持と向上に努めているが、これからも継続して実施することが重要と考える。

また、地域の育児の現状を把握することは大切であり、支援者は、子育てに関する情報の把握、子育てに関する地域活動へ目を向けることも必要であると感じる。